

「二袋で二五〇元（七五〇円）なら、お土産にもってこいだよ」と、香りを確かめ、購入することにした。

同行者がいうには、芳香の強い各種の草花を乾燥させたものであった。

「わあ、デックイ魚の輪切り。見たこともないぞ。大きな胡瓜みたいな野菜もある」

「こっちの緑の葉物も大葉ぞろいだ」

台湾の日常生活に密着した小市場の品物を見ることで、観光では触れられない一面が感じられた裏通りだった。

歴史的とはなにか

— 五都博物館巡り

石塚 秀雄

1. 北京から台北へ

ときたま外国にでかけたりすると彼我の違いが気になる。

二〇一二年一〇月は尖閣問題がかまびすしく、日本のテレビ

や新聞では中国における反日デモや排外的な動きがしきりに報道された。日本人は街を歩くのも危険だというようなことが言われた。へそ曲がりの私は、中国の様子を見てみようと思ひ立ち、北京に数日間の小旅行をすることにした。すると

かなりのインテリの人でも、「今、中国に行くのは危険ではないですか」と心配してくれる。私は「そんなことはないと思いますよ」と軽率おりを發揮する。みんなが心配するわけは、そんなマスコミ報道が日本で行われているからだろう。

北京では反日騒動はまったく感じられなかった。天安門広場は沢山のお上りさんで賑わっていたし、一〇〇メートルくらいの帯状の大テレビ画面に観光シーンが映し出されていた。泊まったホテルの玄関横には一億円するといわれるランボルギーニのスポーツカーが止めてあった。日本語を喋っても誰も因縁をつける人もいなかった。もっとも日本人観光客もいなかったが、仮に私が天安門広場の中心で「尖閣は、歴史的にも国際法的にも日本の領土だ」と叫んだら、二花争乱の議論か乱闘になったかもしれない。しかし私は、紛争領土共有論者である。すなわち、歴史的とか国際法的とかいう言説は、それぞれ国内的な説明手段にしかすぎず、自国民にしか通じないと思っているからである。

それにしても、この「歴史的にも」という言説が気になる。歴史とはなにかは、この場合は、多分、ネーションの物語であり、物語とは語られたものあり、まさにそれがヒスト

や新聞では中国における反日デモや排外的な動きがしきりに報道された。日本人は街を歩くのも危険だというようなことが言われた。へそ曲がりの私は、中国の様子を見てみようと思ひ立ち、北京に数日間の小旅行をすることにした。すると

かなりのインテリの人でも、「今、中国に行くのは危険ではないですか」と心配してくれる。私は「そんなことはないと思いますよ」と軽率おりを發揮する。みんなが心配するわけは、そんなマスコミ報道が日本で行われているからだろう。

北京では反日騒動はまったく感じられなかった。天安門広場は沢山のお上りさんで賑わっていたし、一〇〇メートルくらいの帯状の大テレビ画面に観光シーンが映し出されていた。泊まったホテルの玄関横には一億円するといわれるランボルギーニのスポーツカーが止めてあった。日本語を喋っても誰も因縁をつける人もいなかった。もっとも日本人観光客もいなかったが、仮に私が天安門広場の中心で「尖閣は、歴史的にも国際法的にも日本の領土だ」と叫んだら、二花争乱の議論か乱闘になったかもしれない。しかし私は、紛争領土共有論者である。すなわち、歴史的とか国際法的とかいう言説は、それぞれ国内的な説明手段にしかすぎず、自国民にしか通じないと思っているからである。

それにしても、この「歴史的にも」という言説が気になる。歴史とはなにかは、この場合は、多分、ネーションの物語であり、物語とは語られたものあり、まさにそれがヒスト

や新聞では中国における反日デモや排外的な動きがしきりに報道された。日本人は街を歩くのも危険だというようなことが言われた。へそ曲がりの私は、中国の様子を見てみようと思ひ立ち、北京に数日間の小旅行をすることにした。すると

かなりのインテリの人でも、「今、中国に行くのは危険ではないですか」と心配してくれる。私は「そんなことはないと思いますよ」と軽率おりを發揮する。みんなが心配するわけは、そんなマスコミ報道が日本で行われているからだろう。

北京では反日騒動はまったく感じられなかった。天安門広場は沢山のお上りさんで賑わっていたし、一〇〇メートルくらいの帯状の大テレビ画面に観光シーンが映し出されていた。泊まったホテルの玄関横には一億円するといわれるランボルギーニのスポーツカーが止めてあった。日本語を喋っても誰も因縁をつける人もいなかった。もっとも日本人観光客もいなかったが、仮に私が天安門広場の中心で「尖閣は、歴史的にも国際法的にも日本の領土だ」と叫んだら、二花争乱の議論か乱闘になったかもしれない。しかし私は、紛争領土共有論者である。すなわち、歴史的とか国際法的とかいう言説は、それぞれ国内的な説明手段にしかすぎず、自国民にしか通じないと思っているからである。

それにしても、この「歴史的にも」という言説が気になる。歴史とはなにかは、この場合は、多分、ネーションの物語であり、物語とは語られたものあり、まさにそれがヒスト

で気づいたことは、植民地解放以降の戦後史の展示がほとんどないことだ。それは同時代史ということで歴史の範疇に入らないということか。朝鮮半島は解放から分断と朝鮮戦争という不幸な道筋をたどり、コリア民族の歴史もまた統合されることなく南北に分断され、六〇年ひとつの歴史像を作ることとはできていない。コリア民族は、多民族国家を形成したことはない。しかし現在、北と南に統一の動きはない。もちろん南北それぞれに歴史はあるのであるが、こうした場合、「歴史的」とは奈辺を指すものであろうか。

同じ半島国家ともいべきスペインの北部のバスク地方の大都市ビルバオに、近年できたグッゲンハイム・ミュージアムがある。アメリカ人のフランク・ゲイリーの設計になり、チタン製の金属板で覆われた曲線を中心とした超モダンな建物である。アメリカンテイストの展示物よりも建物自体で有名である。この美術館の広場に花で覆われた巨大な犬の像がそびえている。それは、天安門広場の巨大な花球と相通じる大衆的モダンアートである。この独立心に飛んだバスクがなぜ、このような脱歴史的な美術館を作ったのか、あるいは受け入れたのであろうか。

バスクはスペインからの分離独立志向が強い。バスクナショナルリズムの歴史意識とはどのようなものであろうか。スペイン国家の歴史的なるものを越えて、一挙にユニバーサルなものとして接続するという態度ではないか。とはいえスペイン

自体、それこそ歴史的には八〇〇年のイスラム支配を受けてきたのであり、スペインの歴史的アイデンティティも単線でつながるといえることはない。

3. ロンドンから東京へ

ビルバオからロンドンへは飛行機で一時間ちよつとである。ロンドンの人口の約三割は外国人である。しかし、イギリスもまた多民族国家ともいえ、スコットランドはほぼ独立状態である。調査統計で、細かな事項になるとイギリスの全体像を非常につかみづらい。主としてイングランドの統計を使うことになる。

大英博物館には古代アフリカ、エジプト、中近東、ヨーロッパ大陸などの文明文化遺物の展示が犇めいている。大英帝国の版図にあったものをかき集めてきたのであろう。イギリスの歴史意識の範囲はどこまでを指すのであろうか。博物館は戦利品を展示していると見るべきなのであろうか。それともイギリスが最大限に膨張した範囲を自己意識の極限としているのであろうか。私がテムズ川の船上で話を交わした旅行者と思つた黒人家族は、ロンドンの住民だった。彼らにとつてナショナルとか歴史的とはどのようなことになるのであろうか。東京に戻ると、やたらに国益ということばが飛び交っている。国益とは国家利益か国民利益か、あるいはそれは同じ事

だといふのか。時あたかも、政府が一九五一年サンフランシスコ条約の日を主権回復の日として祝う事に対して沖繩が不快感を表明した。ここでの主権とは沖繩抜きにした狭量な国家主権にすぎず、国民主権ではない。それは自国中心主義とも呼ばれる排他的なもので、他国民を納得させることはできない。このような日本的ナショナリズムの止揚なしには、近頃の政治的事件、たとえば、領土問題、沖繩基地問題、TPP問題、靖国神社問題などのよき決着の目処をつけることはできないであらう。

歴史意識は自己意識規定であり、他者も独自の歴史的自己意識を持つ。「歴史的」と安易に自己規定しても、他者を納得させることはできない。だから国内むけのプロバガンダである。そのナンセンスを克服するためには、他者と語り合うことが唯一のよき相互了解の方法であるかと思えるが、また語り合わないというのもひとつの態度ではある。しかし自国民だけで盛り上がることの浅はかな結末は歴史が示している。だから、それぞれ言い分があるのだという歴史的相対主義はくだらないことである。博物館の誕生は、当初の意図を越えて、世界についての共通の認識の必要性を予感したものであり、当時の言い方の一つでは人々が類的存在化を目指すこともあつたらう。するとナショナリズムとは歴史的な一過性のイデオロギーにすぎず、それに固執することは歴史的反動といふことにならう。